

大震災・復興ニュース(第134報)

平成25年11月14日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況(国及び県全体の動き)

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

- 1 測定年月日 平成25年11月8日～11月12日
- 2 測定分析機関 いであ(株),(一財)日本食品分析センター,(一財)九州環境管理協会,(株)静環検査センター。
- 3 測定結果

すべての検査品目について、基準値を下回り、安全性に問題のないことが確認されました。

水産物(採取日 平成25年9月3日～11月7日) (単位:ベクレル/kg)

種別	採取場所	放射性セシウム	種別	採取場所	放射性セシウム
ヒラメ	気仙沼市唐桑沖	不検出	ヒラメ	亶理荒浜沖	不検出
ウバガイ	山元沖	1.6	ヒラメ	仙台湾	不検出
ヒラメ	宮城県沖	1.0	マダラ	宮城県沖	4.7
ヒラメ	仙台湾	9.3	ゴマサバ	三陸南部沖	0.40
ヒラメ	亶理荒浜沖	4.8	ネズミザメ	北海道・青森県沖太平洋	不検出
ヒラメ	亶理荒浜沖	4.5	ヨシキリザメ	北海道・青森県沖太平洋	不検出

2 管内の復興に向けた動き

サケの捕獲・採卵が行われています

・現在、管内各地で採卵のために河川に遡上したサケの捕獲採卵が行われています。宮城県では、サケ資源を守りながら利用していくために、100年以上前からサケのふ化放流が行われています。当水産漁港部管内には、鳴瀬吉田川・広瀬名取川・阿武隈川の3つの水系があり、7カ所のふ化場でふ化放流事業が行われています。

今年は、東日本大震災発生前後に放流した稚魚が親魚として帰って来始める年ということで、来遊数の減少が心配されていましたが、県全体の10月30日現在の捕獲尾数は、海と川を合わせて117万尾あまり、台風の影響で捕獲の進まなかった管内でも6万6千尾あまり(昨年度比92%)と、概ね前年度並みとなっています。各ふ化場で採卵された卵は、年末～年明けにはふ化し、2月～4月には放流される予定です。

サケ捕獲状況(平成25年10月30日現在)

区分	本年度捕獲尾数	前年度捕獲尾数	前年同期比	(うち本年度河川捕獲数)
県全体	1,175,019	692,059	169.8%	(41,204)
うち当所管内	66,100	71,526	92.4%	(5,367)

漁場ガレキの撤去作業状況について

・東日本大震災により海中に流失したガレキを撤去するため、平成23年度から専門業者による漁場のガレキ撤去作業を実施しています。今年度は、10月4日から七ヶ浜町地先海域で撤去作業を開始し、外洋部は起重機船、内洋部はバックホウ台船を用い、11月9日現在、鉄屑や養殖資材の残骸など486 m³のガレキを撤去しました。

引き続き松島湾内や山元町地先海域等で撤去作業を実施することとしております。



バックホウ台船による撤去作業

磯崎漁港の浚渫工事が完了しました

・磯崎漁港白地で、東日本大震災による津波の影響で堆積した土砂を取り除く工事を行ってまいりましたが、この程、護岸の応急嵩上げ工事を含め「磯崎漁港泊地浚渫工事」が完了したのでお知らせします。

なお、磯島の復旧工事につきましては、現在、仮契約中であり、11月の県議会で承認を得た後、本契約することとしております。関係者の皆様と調整を行いながら工事を進めて参りますので、引き続きご協力をお願いします。

